

## 小学校受験は親子の受験

アリスこどもスクール 代表 野笹 玲子

私は教師として小学校受験の指導に携わって今年で15年になりますが、今改めて思うことは、小学校受験は単に子供だけの能力や資質を問われているのではなく、その家庭の環境や家族のあり方、ご両親の考え方や生き方、姿勢を含めての総括的な試験であるということです。即ち「能力があれば合格できる」というものではないのです。

お子さんを通して、そのお子さんが存在するに至った今日までの過程、つまりどのような環境において培われた能力であり性格であるのかを行動や言語・表情から見極めようとするものなのだと考えます。多くの私立小学校の校長先生や小学部長先生方とお話させていただき折に、必ず「親がしっかりとした考え方をもって育てている家庭のお子さんを迎えたい」そして「どういう学校なのかをよく知って志願して欲しい」という言葉を伺います。それは初等教育が基礎学力の習得の為の学習習慣（家庭学習も含めて）の確立はもとより、健全な人格形成の為の社会性や集団性を養うという重要な役割を務めているからなのです。

ご両親が良識を持って学校や教師を信頼し、一体となって学ぼうとする姿勢があれば、必ずそのお子さんは伸びてゆくものであり「環境が子供を育てる」という教育の原点がそこにあるからです。

ですから周囲のお友達が皆私学を受験するから我が子も・・・などという安易な思いつきの発想からでは、たとえどんなに高い能力を備えているお子さんであったとしても、とうてい合格をいただくことは出来ません。

私学の先生方の目は、きちんとご両親を見ておられるのです。

私の教室にご相談に見えるお父様お母様にまず私がお話することは「なぜ私立小学校を希望するのか」を充分にご夫婦で話し合っていたいただきたいということです。

それは通学範囲の公立小学校の実態も含めて、私学に学ぶ意義をしっかりと見出し、その上で小学校受験の準備に臨んでいただきたいからです。

多くの親御さんがまず「小学校受験ありき」でとりあえず教室に通わなければ・・・とお考えの様ですが、実はそうではないのです。

もちろん教室の大きな役割の一つとして、それぞれの私立小学校の教育内容や

試験内容などの正確な情報を提供するという事がある訳ですから、教室で学んでゆく中で、志望する学校が次第にはっきりと見えてきたり変わってゆくこともあるはずですが、しかし、目的がしっかりとしていないままに中途半端なスタートを切れば、当然傷つけてしまうのは大切なお子さんなのです。

もう一つ私が必ずお話しすることは「親子で学ぶ姿勢を持つ」ということです。それこそが私学が求めているものだからです。

幼児は決して自分だけでは学べませんから、前述の通り学びの環境作りが必要であり、それこそが合格を左右すると言っても過言ではありません。意識をもって早い時期から絵本の読み聞かせをしたり、手作りのパズルを工夫したり、積木や折り紙等で十分に遊んでいる親子と、できあいのおもちゃを与えて、習い事をしていることに安心し、子育てをおまかせしている親子との生活環境の差は、5歳の時点で歴然と現れてくるのです。

私の教室では全授業を公開していますが、それはお父様、お母様に学習していただく為のものですから、「出来ないことや間違っただけに対して決して叱らないこと」「お友達と比較して我が子を責めないこと」を守っていただいています。なぜならそうした親の姿勢が子供の学ぼうとする芽を摘んでしまうからです。子供が指導を受けたら「恥ずかしい」と思って叱責するのではなく「私が気づかず、至らなかつたばかりに我が子に可哀想な思いをさせてしまった」と謙虚に反省できる親であって欲しいのです。

考える子供を育てたいならば考える親にならなければなりません。教師はさらに、さらに考え工夫しなければならぬと私は思っています。

どうしたら子供が楽しく学べるか・・・どうしたら？どうしたら？・・・と。我が子の良いところ、足りないところがしっかりと見えてきた親御さんのお子さんから伸びてゆきます。

「先生どうしたらいいのでしょうか？」と相談に来る親御さんから考える親になってゆくのです。

学ぼうとする人に、教師は限りなく手を差し延べるものなのです。それは私学の先生方も同様です。

私は、ご両親をも諭せる教師であり続けたいと願っています。

心身の発達に伴い精神年齢が高くなり、近年は子供達もはっきりと受験というものを認識していきます。

「テストが良い点だったら・・・」「一を頑張ったら」という様な常ににんじんをつるした状態では、今日の受験を成功に導くことは不可能です。

ですから子ども自身の中にも「立派な一年生になりたい」という受験に向うしかりとした意識づけが必要です。

その意識づけをどの様な時期に、どの様な形で行っていくのかが重要ですが、個人差があるものですから、教師と家庭が信頼し合い相乗的に行ってこそ、意識を高め、自らの意思で受験を頑張れる強い精神力も養われてゆくのです。

このように小学校受験は中学・高校・大学の受験とは全く異なり、あらゆる角度からお子さんご両親、家庭をそれぞれの学校の「ものさし」で測られるわけですから、両親の相意はもちろんご家族全員の理解と協力なくしてはできない『親子の受験』と申し上げたいのです。

だからこそ親子・家族が心をひとつにして頑張った小学校受験は、その家族にとってかけがえのない財産となり、お子さんの未来への大きな糧となるものと確信しています。